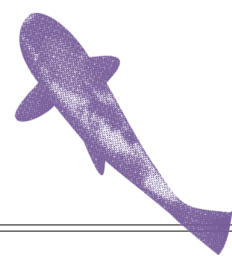


sento &
neighborhood
journal

FUJINOYU

せんとうと
まち新聞北区の
記憶あつめ編
Vol.14
藤乃湯

ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとうとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全22軒(令和6年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有することで、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS 藤乃湯紹介/記憶地図/住民かく語りき



祖父の頃から大切に祀っているお稲荷様。藤乃湯を見守り続けている。

また、下町ならではの人情味も藤乃湯の魅力で、佐藤さんも「子どもの頃から銭湯が遊び場で、小学校が終わると、友だちと一緒にしゃがみ込んで、父に叱られることもあったが、この地域の子どもたちはそうやって父や常連さんたちに叱ら

れる。また、下町ならではの人情味も藤乃湯の魅力で、佐藤さんも「子どもの頃から銭湯が遊び場で、小学校が終わると、友だちと一緒にしゃがみ込んで、父に叱られることもあったが、この地域の子どもたちはそうやって父や常連さんたちに叱ら

廃材を活用するために誕生したエコな銭湯

祖父と父から受け継いだ
伝統と信条を守り続ける
人情味に満ちた銭湯

れながら、公共のルールを学んでいた。それもある種の教育だったし、銭湯の良さだと思ふこと目を細める。

受け継がれてきた
古き良きスタイル

そんな藤乃湯が建て替えて、今のビル型銭湯になったのは1980年のこと。とはいえ、今も脱衣場や風呂場は情緒たつぷりで、ビル型銭湯とは思えないほど天井が高く、開放感に満ちている。そのため、多くの常連が「藤乃湯の居心地は抜群」と口を揃える。

ちなみに、佐藤さんが銭湯を手伝いはじめたのは1985年頃。「子どもの頃から『お前が後を継ぐんだ』と父に言われていた



ビル型に建て替えても天井の高い開放的な脱衣場。

もつとも「いざ自分で銭湯を切り盛りするようになったからは自由な時間がなくなったり、友人と休みが合わなかったりして悩んだ時期もあった」そう。それでも「お客さんが喜んでくれたり、初めて来た方



きれいに整理整頓された燃料用の木製パレット。

が「銭湯って良いですね」と言ってくれたりするたびに、継いで良かったと感じられるようになっていった」と佐藤さんは笑顔を見せる。また、一時はガスに切り替えるかどうか迷う時期もあったそうだが、「今もほとんど井戸水を新で沸かすスタイルを貫き続けている」とのこと。「苦労はあるが、汗をかくのは嫌いな評判も良く、達成感もある。最近ではガス代が高騰したこともあって、他の銭湯の店主たちからうらやましがられることも増えた」そう。なお、主な燃料として使っているのは近隣の印刷会社「大日本印刷」の使用済みの木製パレットで、これは先代の頃から「必要な時に取りに行かせてもらうことになっている」とか。もともと廃材を利用して銭湯を開業したルーツを持つだけに、エコな精神は今も健在で、SDGsの潮流にも見事にマッチしているようだ。

常連は高齢化とともに減少傾向にあるが、最近ではテレビドラマ『サ道』のおかげで、若い人たちのサウナ利用が多くなっているという。もともと「お客さんの中には、一人身の方も多く、倒れたりするのが怖いので、これからも通います」という方や「今日初めて話したのが店主だよ」と言ってくれる人もいる。皆さん、銭湯に来て楽しそうにしているし、いつも来る人が来ないといやっぱり心配になる。常連さんの見守り機能も地域における銭湯の重要な役割のひとつだと思ふと力を込める。古き良き伝統と信条を守り続けている銭湯である。

せんとう情報 SENTO DATA

藤乃湯



藤乃湯 東京都北区神谷3-23-12 東京メトロ南北線「志茂駅」から徒歩12分、JR埼京線「赤羽駅」から徒歩15分
15:45-23:30 定休日:木曜

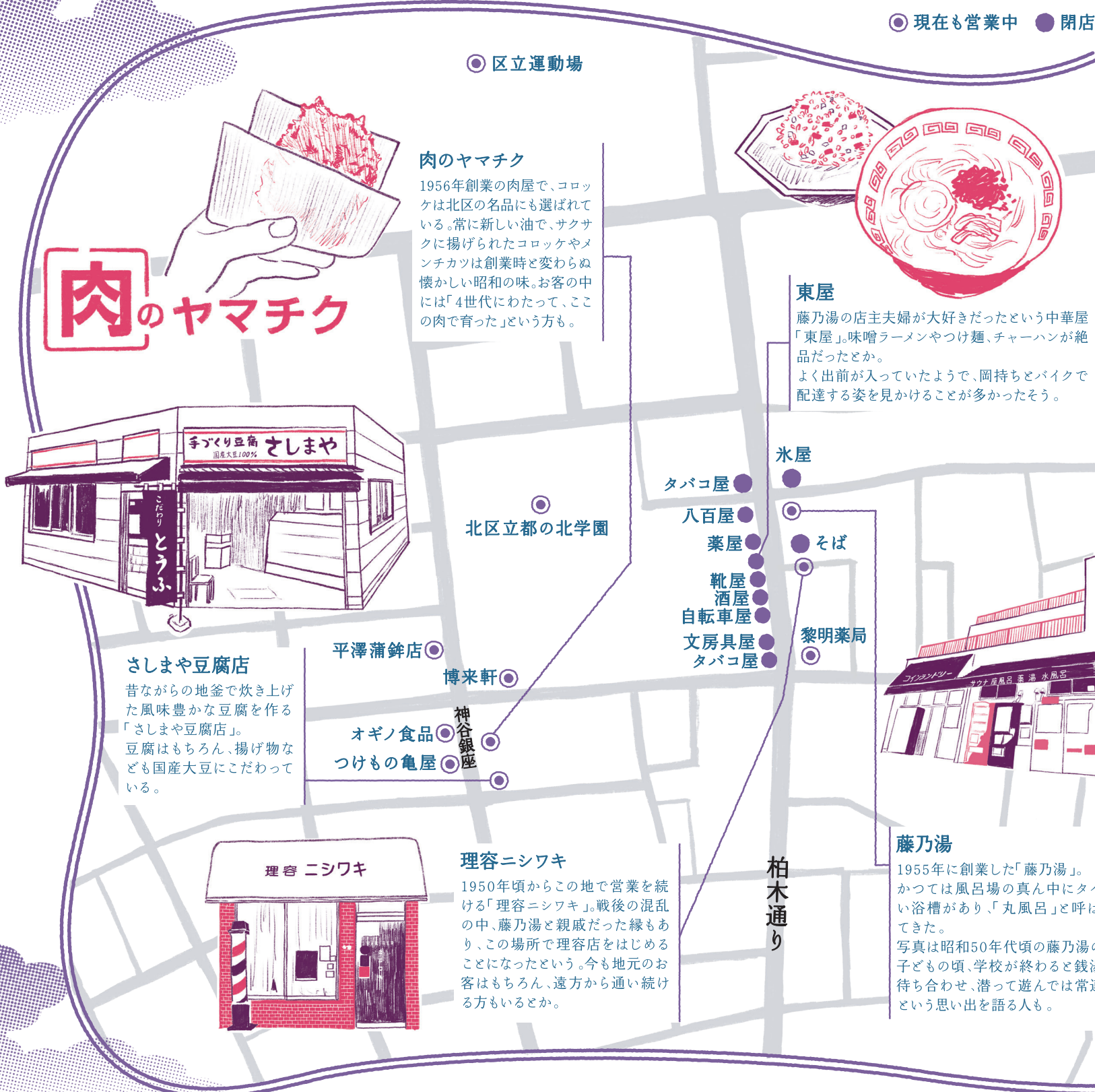
フロント 薬湯 サウナ 水風呂 ランドリー

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

藤乃湯編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう！



住民かく語りき

藤乃湯周辺



Photo / Mari Okamoto

11月13日、記憶集めトークイベントが実施された。これは藤乃湯周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていくというものだ。常連をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。

まず話題に上がったのは藤乃湯の居心地の良さだ。常連からは「藤乃湯が一番近いし、何より落ち着く。1時間くらい湯船に浸かり、風呂上がりにはゆっくりと牛乳を飲んでから帰るのがルーティンになっている。店主も女将さんも気さくで、ちょっとした会話が心地良い」「家にも風呂はあるが、大きくてきれいな風呂に入りたくて、仕事の前後や後にならずにいたいほど汗を流しに来ている」といった声が上がった。

そして、その居心地の良さには、もともと銭湯を営んでいたという参加者も大いに賛同。「自分で銭湯を営んでいた時は掃除が大変だったが、今はいろいろな銭湯に通うのが楽しみ。なかでも藤乃湯は清潔感があって落ち着くし、湯加減が最高なので頻繁に通い続けている。これだけ素晴らしい状態を維持し続けるには並々ならぬ苦労があると思う」と店主の佐藤さんがねぎらっていた。佐藤さんもお話し好きの常連さんが多く、湯上がりに話して、玄関を出た後にまた戻ってきて話したり。皆さん、コレとコレとコレ、と話す内容を決めて来ているんじゃないかと思うほど」と微笑む。

話題は藤乃湯が建て替えられる前のことにも及んだ。「風呂場の真ん中にあった『丸風呂』はタイルの意匠が美しく、人気があった。真ん中には仕切りがあって、深い風呂と浅い風呂に分かれていたが、よくその下を潜ってぐり抜けたらして遊んでいた」と佐藤さんも笑いながら話していた。

今回は藤乃湯の居心地の良さがひしひしと伝わってくるトークイベントになった。次回も参加者とともに、多くの記憶を集めていきたい。

藤乃湯に遊びに来てね！



地域や神仏に感謝しながら銭湯を守り続けたい
— 佐藤裕亮さん(藤乃湯2代目店主)

土建業を営んでいた祖父はこのあたりの土地を所有しており、藤乃湯だけでなく、親戚とともに周囲の店を次々と開業していきました。表通りでは、昔は叔父が「クラブハウス」という喫茶店もやっていた。店主の高齢化やスーパーマーケットの台頭などで徐々にその数は減っていきましたが、今も理容室をはじめ、いくつかの店舗が親戚やその関係者によって営まれています。

また、祖父と父に共通していたのが信心深いところです。神棚はもちろん、鬼門の方角にはお稲荷様を祀らなければならないということで、今もうちにはお稲荷様があるんですよ。かつては縁側、庭池があって飛石を辿ってよく庭のお稲荷様にお参りしていたのを覚えてます。毎月1日と15日にお稲荷様をもらってきた赤坂にお参りに行ったり、巣鴨の縁日にお参りに行ったりしていました。もちろん、私も神仏への感謝は持ち続けていて、今も神棚やお稲荷様のお参りやお供えは欠かせないようになっていますし、庚申様の手入れもするようにしています。ちょっと古い考え方もありませんが、これからも地域や神仏への感謝の気持ち忘れずに銭湯を守ってきたいと思っています。

COMMENT

わたしのせんととうとまち
— 北区の記憶あつめVol.14 藤乃湯 —

発行：一般社団法人 せんととうとまち

制作統括：一般社団法人 せんととうとまち 栗生はるか 事務局：渡邊勢士 編集・執筆：熊本鷹一 グラフィック：株式会社 PIN DESIGN 菅原悠介/岡本茉莉 映像：Keystone film 鶴若仰太 協力：東京都北区浴場組合

北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当：北区政策経営部シティブランディング戦略課)にて制作。

一般社団法人せんととうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。

活動支援の協賛・寄付を募集しています
<https://bio.site/sentotomachi>